

作成日 2024年7月18日

改訂日 2024年7月18日

## 安全データシート

## 1、製品及び製造者情報

製品名 光造形用レジン MR-AWC クリア  
製品用途 光造形3Dプリンター用レジン  
会社名 武藤工業株式会社  
住所 〒154-8560 東京都世田谷区池尻3-1-3  
担当部門 3DP・設機事業部  
電話番号 03-6758-7024 FAX番号 03-6758-7013  
緊急連絡先 同上

## 2、有害性情報危険有害性の要約

GHSの分類

物理学的危険性 区分に該当しない

健康に対する有害性

GHSラベル要素

該当するGHSラベル



注意喚起語

警告

危険有害性情報

H315 皮膚刺激

安全対策

保護メガネ・保護手袋を着用する。

取扱い後は手をよく洗う。

応急処置

物的被害を防止するため流出したものを拭取る。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗う。

コンタクトレンズ着用の場合、容易にはずせるなら外す。

その後も洗浄を続ける。

医師の診断・手当てを受ける。

保管

涼しく暗い所/換気の良い場所で保管すること。

廃棄

内容物及び容器は地方自治体の規則に従って廃棄すること。

## 3、組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 混合物

一般名 アクリル系光硬化性樹脂

成分及び含有量

成分	含有量(%)	化審法	安衛法	CAS No.
アクリレートオリゴマー	40～ 90	登録あり	登録あり	登録あり
アクリレートオリゴマー	1～10	登録あり	登録あり	登録あり
光重合開始剤	<10	登録あり	登録あり	登録あり

4、応急処置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移動し、暖かく安静にする。状況によって医師の診断・手当てを受ける。
皮膚に付いた場合	付着した衣服、靴を脱ぎ、付着した部分を多量の水及び石鹼水で洗浄する。
眼に入った場合	こすらずに直に清浄な水で最低 15 分間、目を洗浄する。状況により医師の診断・手当てを受ける。
飲み込んだ場合	多量の水又食塩水を飲ませて吐き出させ、直に医師の診断を受ける。

5、火災時の措置

消化剤	粉末、泡沫、乾燥砂、炭酸ガス
使ってならない消火剤	水
特定の消火方法	可能ならば、速やかに容器を安全な場所に移す。 適切な保護具を着用する。 消火活動は風上から行う。
消火を行う者の保護	消火作業では、適切な保護具（呼吸用保護具、化学防護服、手袋、眼鏡、マスク）を着用する。

6、漏出時の措置

人に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	作業の際は、適切な保護具を着用し、漏出した液が皮膚に付着したり、蒸気を吸入したりしないようにする。風上から作業をし、風下の人を退避させる。 漏出場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。
環境に対する注意事項	漏出した製品が、下水、排水溝、低地に流出しないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法	漏出原を遮断し、漏れを止める。 少量の場合は盛土で囲って、流出を防止してから処理する。

7、取扱い及び保管上の注意

取扱い	換気の良い場所で行う。 眼、鼻、皮膚への接触を防止し、取扱い後には手や顔をよく洗う。
-----	---

保管 容器を密閉して換気の良い冷暗所に保管する。(保管温度は 20℃以下が望ましい)

8、暴露防止及び保護措置

設備対策 局所排気装置を設ける。(換気を良くする)

管理濃度 設定されていない。

<許容濃度>

日本産業衛生学界 設定されていない。

ACGIH(TLA-TWA) 設定されていない。

<保護具>

呼吸器の保護具 有機ガス用防毒マスク又は、送気マスク、自給式呼吸

手の保護具 不浸透性の手袋

眼の保護具 保護眼鏡、状況に応じて保護面

皮膚及び身体の保護具 不浸透性の保護衣、状況に応じて保護長靴

9、物理的及び化学的性質

<物理的状态>

外観(形状) 粘調液体

粘度 200mPa・s/25℃

pH データなし

比重 1.10 (25℃)

屈折率 データなし

臭い データなし

<物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲>

沸点 データなし

融点 データなし

引火点 > 200℃

発火点 データなし

爆発限界 上限 データなし 下限 データなし

蒸気圧 データなし

蒸気密度 > 1

揮発性 なし

溶解性 水、アセトンに可溶

10、安全性及び反応性

安定性 通常の手扱い条件で安定。

光で硬化する。硬化中、反応熱によって高温になる恐れがある。

熱、金属との接触などで発熱、重合を起こす恐れがある。

危険有害反応可能性 酸、強アルカリ、酸化剤等と混合した時、反応する可能性がある。

危険有害な分解生成物 燃焼などにより一酸化炭素、二酸化炭素等の有毒ガスを生じる。

## 1 1、有害性情報

急性毒性（経口）	LD <sub>50</sub> > 2000 mg/kg
急性毒性（経皮）	データなし
急性毒性（吸入：蒸気）	データなし
皮膚腐食性・刺激性	データなし
眼損傷性/眼刺激性	データなし
呼吸器感作性/皮膚感作性	データなし
生殖細胞異変性	データなし
発ガン性	データなし
生殖毒性	データなし
特定標的神腎器/全身毒性（単回暴露）	データなし
特定標的神腎器/全身毒性（反復暴露）	データなし

## 1 2、環境影響情報

## &lt;生態毒性&gt;

魚毒性	データなし
残留分/分解性	データなし
生態蓄積性	データなし

## 1 3、廃棄上の注意

残余廃棄物	都道府県知事の許可を受けた廃棄物処理業者に委託処理する。 処分する時は、ウエスなどに吸着させ、アフターバーナー及びスクラバーを具備した焼却炉で焼却する。
汚染容器及び包装	容器は洗浄してリサイクルするか、法規に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去する。

## 1 4、輸送上の注意

## &lt;国際規制&gt;

国連分類	非該当
国連番号	非該当
容器等級	非該当

## &lt;国内規制&gt;

陸上輸送	消防法等に定められる運送方法に従う。
海上輸送	船舶安全法に定められる運送方法に従う。
航空輸送	航空法に定められる運送方法に従う。
特定の安全対策	容器の破損、漏れが無い事を確かめ、荷崩れ防止を確実に行う。 当該規定に従い、包装、表示、輸送を行う

## 1 5、適用法令

消防法	危険物 第4類第4石油類	危険物等級3
毒劇法	非該当	
労働安全衛生法	表示物質	非該当
	通知対象物質	非該当
PRTR法	第1種指定化学物質	非該当
	第2種指定化学物質	非該当
船舶安全法	非該当	
航空法	非該当	

## 1 6、その他の情報

主な引用文献：

- 1) 化審法の既存化学物質安全性点検データ集（日本化学物質安全・情報センター）
- 2) GHS分類結果データベース（独立製品評価技術基盤機構）
- 3) 安全衛生情報センターGHSモデルSDS情報（中央労働災害防止協会）
- 4) 緊急時応急措置指針（日本規格協会）
- 5) 労働安全衛生法SDS対象物質全データ（化学工業日報社）
- 6) 化学品法令集（化学工業日報社）
- 7) 危険物船舶運送及び貯蔵規則
- 8) 15308の化学商品（化学工業日報社）
- 9) 原料メーカーSDS

## 記載内容の取扱い

全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。  
また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。  
重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく検討されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。

なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。

また、注意事項は、通常的な取扱いを対象としたもののため、特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願いします。

以上